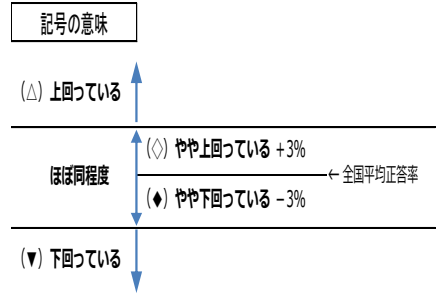


## 2 小学校 算 数

# 設問別調査結果 [小学校 算数A : 主として知識]

## 分類・区別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	数と計算	8	◆	80.2
	量と測定	4	◆	68.3
	図形	3	◇	72.5
	数量関係	4	◆	83.4
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	0		
	数量や図形についての技能	8	◆	86.2
	数量や図形についての知識・理解	11	◆	70.5
問題形式	選択式	8	◆	68.2
	短答式	11	◆	83.6
	記述式	0		



※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			札幌市		全国(公立)	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1(1)	243-65 を計算する	繰り下がりのある減法の計算をすることができる	○					○	◇	0.2	88.2	0.2	
1(2)	0.75+0.9 を計算する	小数の加法の計算をすることができる	○					○	△	0.4	71.3	0.3	
1(3)	9.3×0.8 を計算する	小数の乗法の計算をすることができる	○					○	▽	0.6	83.7	0.4	
1(4)	6÷5 を計算する	商が小数になる除法の計算をすることができる	○					○	◇	1.7	88.3	1.4	
1(5)	16-(6+3)を計算する	( )を用いた整数の計算をすることができる			○			○	◆	1.0	94.4	0.8	
1(6)	2と5/7+1と1/7 を計算する	同分母の分数の加法の計算をすることができる	○					○	◇	2.0	88.9	2.1	
1(7)	2/9×4 を計算する	乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をすることができる	○					○	▽	3.5	89.5	1.7	
2	一万の位までの概数にしたときに、20000になる数を選ぶ	示された位までの概数にする際、一つ下の位の数を四捨五入して処理する方法について理解している	○					○	▽	2.6	60.2	1.9	
3	除数と商と余りから被除数を求める式を選ぶ	余りのある除法の場面において、被除数を求める式について理解している	○					○	◆	2.0	71.6	1.8	
4	AとBの2つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解している		○				○	◆	1.1	50.0	0.8	
5(1)	木のまわりの長さを測定する際に用いる計器を適切に選ぶ	曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器を理解している		○				○	◆	0.5	97.4	0.4	
5(2)	1a(1アール)と等しい面積になる正方形の1辺の長さを選ぶ	1a(1アール)の面積と等しい正方形の1辺の長さを理解している		○				○	◆	1.3	52.3	1.1	
5(3)	上底3cm、下底8cm、高さ4cm、斜辺5cmの台形の面積を求める式と答えを書く	台形の面積の求め方を理解している		○				○	▽	2.7	73.3	2.1	
6	三角形ABCと合同な三角形をかきとることができる条件を選ぶ	三角形ABCと合同な三角形をかきとるために必要な条件を理解している			○			○	◇	1.3	60.7	1.0	
7(1)	展開図に示された側面の長方形の縦の辺の長さを書く	円柱について、見取図の高さと展開図の側面の辺の長さとの対応していることを理解している			○			○	◇	2.3	90.6	2.1	
7(2)	展開図に示された側面の長方形の横の辺の長さ求める式と答えを書く	円柱について、底面の円周の長さとの展開図の側面の辺の長さとの対応していることを理解している			○			○	◆	7.1	66.3	5.7	
8(1)	200cmの50%に当たる長さを選ぶ	割合が50%のとき、基準量と比較量の大きさの関係を理解している			○			○	◆	2.3	76.7	2.2	
8(2)	500gの120%に当たる重さについて、適切なものを選ぶ	割合が100%を超えるとき、基準量と比較量の大きさの関係を理解している			○			○	◇	2.8	76.9	2.8	
9	最小目盛りが2に当たる棒グラフから、借りた本の冊数が一番多い曜日とその曜日に借りた冊数を書く	棒の長さで最小目盛りに着目して、数値が最も大きい項目とその数値を読み取るることができる			○			○	◆	2.5	85.7	2.8	

(△)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (○)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▽)下回っている

## 【設問分析】

### 1 四則計算

①は、整数、小数、分数の計算をすることができるかどうか、( )を用いた計算をすることができるかどうかをみるものであり、整数の計算2問、小数の計算が2問、加法と乗法の混合した計算1問、分数の計算2問の計7つの設問により構成されている。

#### 【設問(1)】

- ・繰り下がりのある減法「(3位数)－(2位数)」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

#### 【設問(2)】

- ・小数第2位までの加法「(小数)＋(小数)」の計算では、全国の平均正答率を上回っている。

#### 【設問(3)】

- ・小数の乗法「(小数)×(小数)」の計算では、全国の平均正答率を下回っている。

#### 【設問(4)】

- ・商が小数になる除法「(整数)÷(整数)」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

#### 【設問(5)】

- ・( )を用いた整数の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

#### 【設問(6)】

- ・同分母の分数の加法「(帯分数)＋(帯分数)」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

#### 【設問(7)】

- ・乗数が整数である場合の分数の乗法の計算では、全国の平均正答率を下回っている。

「数と計算」領域における「四則計算」については、過去5回と同様、全国平均を下回っているものがある。特に、「(小数)×(小数)」の計算は、全国の平均正答率を下回っており、誤答を見ると、小数点の位置を誤るものが多いことから、結果の見積もりを行って計算結果の確認に生かすことや、確実に手続きを習熟するよう指導することが求められる。また、「(分数)×(整数)」の計算は、全国平均正答率を下回っており、分数そのものや分数の計算方法の意味についての理解を確実にする指導が求められる。この計算は、第6学年で学習する乗数が分数の場合の分数の乗法で活用する内容であり、確実な定着が求められる。

「数量関係」領域における、( )を用いた整数の計算については、今回、加法と減法の混合した計算であるが、全国の平均正答率(94.4%)をやや下回っているものの、相当数の児童ができています。なお、「加法と乗法の混合した整数の計算」を調査した平成24年度調査では、式の左から順に計算する誤答が16.3%となっていた。四則混合の計算のきまりについての理解を深めることも重要である。

### 2 四捨五入

②は、四捨五入で数を適切に処理する方法について理解しているかどうかをみるものである。

- ・四捨五入で数を適切に処理する方法については、全国の平均正答率を下回っている。

「数と計算」領域における、「四捨五入で数を適切に処理すること」については、全国の平均正答率（60.2%）を下回っている。どの位で四捨五入するかによって概数の値が異なることに気付かせたり、数直線に表す過程を大切にするなどして、概数について確実な理解を図り、目的に応じて用いることができるようにする指導の充実が大切である。

### 3 被除数、除数、商及び余りの間の関係

③は、被除数、除数、商及び余りの間の関係を理解しているかどうかをみるものである。

- ・被除数、除数、商及び余りの間の関係を理解することについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「数と計算」領域における、「被除数、除数、商及び余りの間の関係」については、除法とその逆算である乗法との関係、商と余りとの関係の両方を正しく理解する指導の充実が大切である。また、「数量関係」において、「式の表現と読み」に関する内容が充実されていることを踏まえ、式を読み取ったり、言葉や図と関連付けて用いたりすることを大切にされた指導を行う必要がある。

### 4 単位量当たりの大きさ

④は、異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方を理解しているかどうかをみるものである。

- ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方を理解することについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「量と測定」領域における「単位量当たりの大きさ」については、全国の平均正答率が50.0%であり、おおよそ半数の児童が誤答となっている。単位量当たりの大きさを求める場合には、求めた商が小数の場合と整数になる場合とを図を用いるなどして比較し、求めた商の意味を理解できるようにする指導が大切である。

### 5 計器の選択、面積の単位、台形の面積

⑤は、測定の目的に応じた計器を理解しているかどうか、面積の単位について理解しているかどうか、基本的な平面図形の面積の求め方について理解しているかどうかをみるものであり、3つの設問により構成されている。

#### 【設問(1)】

- ・曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器への理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

#### 【設問(2)】

- ・1 a（1アール）の面積と等しい正方形の一辺の長さへの理解については、全国の平均正答率と比

較して、やや下回っている。

【設問(3)】

- ・台形の面積の求め方への理解については、全国の平均正答率を下回っている。

「量と測定」領域における「適切な計器への理解」については、全国の平均正答率が97.4%であり、相当数の児童ができています。「1 a (1アール) の面積と等しい正方形の一辺の長さへの理解」については、全国の平均正答率が52.3%であり、おおよそ半数の児童が誤答となっています。単位への理解については、具体的な作業や体験的な活動を通して、量についての実感的な理解を図る指導が求められます。「台形の面積の求め方への理解」については、全国の平均正答率(73.3%)を下回っており、誤答となっている児童が相当数見られます。平行四辺形、三角形の面積の求め方と比較するなどして、公式の意味への理解を深めるなど、確実な理解を図ることが求められる。

## 6 合同な三角形をかくために必要な条件

⑥は、合同な図形をかくために必要な条件を理解しているかどうかをみるものである。

- ・合同な図形をかくために必要な条件への理解については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「図形」領域における「合同な図形をかくために必要な条件への理解」については、三角形では三つの角の大きさが分かれば、合同な三角形を作図できると判断する誤答が多く見られた。合同な三角形をかくたり、作ったりする算数的活動を基に条件を見出す学習や、合同な三角形をかくことができない場合を取り上げ、条件への理解を深めるようにする指導の充実が求められる。

## 7 立体図形の見取図と展開図

⑦は、立体図形の特徴を見取図と展開図とを対応させて理解しているかどうか、立体図形の展開図について、底面の周の長さや側面の辺の長さとの関係を理解しているかどうかをみるものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・円柱について、見取図の高さと展開図の側面の辺の長さなどが対応していることへの理解については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問(2)】

- ・円柱について、底面の円周の長さや展開図の側面の辺の長さなどが対応していることを理解しているかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「図形」領域における「立体図形の特徴を見取図と展開図とを対応させて理解すること」については、相当数の児童ができています。「円柱について、底面の円周の長さや展開図の側面の辺の長さなどが対応していることを理解しているかどうか」については、全国と同様3割を超える児童が誤答となっている。図に表されている情報を読み取り、筋道を立てて考えることができるようにして、図形への理解を深める指導を充実することが求められる。

## 8 百分率の意味

8は、百分率の意味について理解しているかどうかみるものであり、2つの設問により構成されている。

### 【設問(1)】

- ・割合が50%のときの基準量と比較量の大きさの関係への理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

### 【設問(2)】

- ・割合が100%を超えるときの基準量と比較量の大きさへの理解については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「数量関係」領域における「百分率の意味」については、問題の場面から、基準量（例えば、200 cm）と比較量（例えば、100 cm）、割合（50%、0.5、5割）を的確に捉えることが必要である。数量の関係を図や数直線に表したり、読んだりする活動を取り入れるとともに、それらができるようになったかを評価問題として取り上げるなど、一人一人に確実な定着を図る指導が求められる。

## 9 棒グラフ

9は、棒グラフの目盛りの数値に着目して、最大値を読み取ることができるかどうかをみるものである。

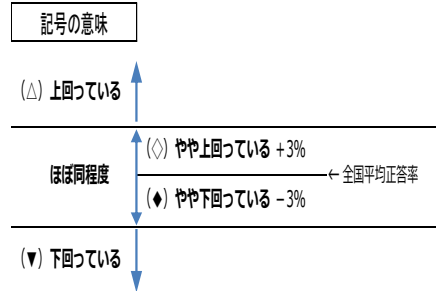
- ・棒グラフの目盛りの数値に着目して、最大値を読み取ることの理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「数量関係」領域における「棒グラフの目盛りの数値に着目して、最大値を読み取ること」については、相当数の児童ができています。最小目盛りを2ではなく、1とみて解答した誤答が見られることから、グラフの目盛りの数値や最小目盛りの大きさに着目して資料を読む活動を充実することが大切である。

# 設問別調査結果 [小学校 算数B：主として活用]

## 分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（%）	
			札幌市	全国（公立）
学習指導要領の領域等	数と計算	3	◆	48.3
	量と測定	7	◆	56.0
	図形	3	◆	79.3
	数量関係	7	◆	54.9
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	8	◆	46.8
	数量や図形についての技能	1	◆	76.1
	数量や図形についての知識・理解	4	◆	77.2
問題形式	選択式	4	◆	73.8
	短答式	4	◆	61.9
	記述式	5	▼	43.2



※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			札幌市		全国（公立）	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率（%）	無解答率（%）	正答率（%）	無解答率（%）
1（1）	残りの乗り物券の枚数と乗る予定の乗り物を基に、二人がまだ乗る予定になく一緒に乗ることができる乗り物を書く	情報を整理し、筋道を立てて考え、三つの条件全てに当てはまる乗り物を判断することができる	○			○		○	◆	4.2	51.0	3.1	
1（2）	三つの乗り物券の買い方を比較して、どの買い方が一番安いかを選択し、そのわけを書く	三つの買い方の中から最も安くなる買い方を選択し、その選択が正しい理由を記述できる	○					○	▼	1.2	50.8	0.9	
2（1）	示された式の値が何を表しているのかを書く	示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているのかについて理解している		○		○		○	▼	4.7	51.7	3.4	
2（2）	正しく測定できなかった結果を除いて平均を求めるときの正しい式を選ぶ	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選択することができる		○		○	○		◆	1.9	75.6	1.3	
2（3）	示された実験の結果から、ふりこの長さ10往復する時間が比例の関係になっていないことを表の数値を基に書く	表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述できる		○		○		○	◆	23.2	35.2	19.0	
3（1）	三人の児童の説明に対応する、長方形を4等分した図をそれぞれ選ぶ	図に示された分割の仕方とその説明とを対応させることができる		○	○		○		◇	1.1	87.3	0.8	
3（2）	示された分け方が元の長方形を4等分していることの説明として、二つの三角形の面積が等しいことを書く	示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを記述できる		○				○	▼	18.8	42.7	15.6	
3（3）	4等分になるための条件の中で、台形では当てはまらないわけを選ぶ	長方形と台形の分割の仕方を比べて、台形の場合は4等分にならないわけを選択することができる		○	○		○		◆	4.4	56.3	3.6	
4（1）	ワールドカップ後の1試合当たりの観客数がワールドカップ前の1試合当たりの観客数の約何倍になるのかを求める方法と答えを書く	単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述できる	○	○				○	◆	13.8	43.1	11.4	
4（2）	5列10番の座席の位置を基に、2列4番の座席の位置を表す	示された情報から二つの要素の意味を解釈し、ものの位置を特定することができる			○			○	◆	3.4	94.2	2.6	
4（3）	示された式を基に北チームの勝ち点の合計を求める式を書き、勝ち点の合計と順位を書く	示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断することができる				○		○	▼	9.1	50.6	7.4	
5（1）	棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフの説明に対して、その説明がグラフのどの期間を示しているのか、正しいものを選ぶ	棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフから、必要な情報を読み取ることができる				○	○		◆	5.7	76.1	5.1	
5（2）	帯グラフに示された割合と基準量の変化を読み取り、インターネットの貸出冊数の増減を判断し、そのわけを書く	割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述できる				○		○	▼	8.7	44.4	7.8	

(Δ)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (○)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▼)下回っている

## 【設問分析】

### 1 複数条件を基にした判断と根拠の説明（遊園地）

①は、日常の事象を数理的に捉え、情報を整理し、筋道を立てて考え判断することや、示された情報を基に条件に合うものを選択し、その選択が正しい理由を数学的に表現できるかどうかをみるものであり、2つの設問により構成されている。

#### 【設問(1)】

- ・情報を整理し、筋道を立てて考え、三つの条件全てに当てはまる乗り物を判断することができるかどうかをみることについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

#### 【設問(2)】

- ・三つの買い方の中から最も安くなる買い方を選択し、その選択が正しい理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみることについては、全国の平均正答率を下回っている。

「数と計算」「数量関係」領域における、「情報を整理し、筋道を立てて考え、三つの条件全てに当てはまる乗り物を判断すること」については、全国の平均正答率と比較して、をやや下回っている。複数の条件全てに当てはまるものを選択する際に、それぞれの条件と照らし合わせて条件に合うかどうかを判断すること、また、判断したことを基に結論を導きだすことを促す指導が求められる。

「数と計算」領域における「三つの買い方の中から最も安くなる買い方を選択し、その選択が正しい理由を言葉と数を用いて記述できるかどうか」については、全国の平均正答率を下回っている。

（札幌市の平均正答率は50%を下回っている。）複数の情報が示されている場面において、条件を把握し、条件に合ったものを選択できるようにすること、また、筋道を立てて、対象や根拠を明らかにした説明の仕方を見出していくようにすることなどを指導の重点として取り上げたい。

### 2 実験結果の数理的な処理と解釈（ふりこ）

②は、示された式や表を基に、平均を求める式の意味を理解すること、測定値の平均について理解すること、表の数値を基に、二つの数量の関係を数学的に表現することができるかどうかをみるものであり、3つの設問により構成されている。

#### 【設問(1)】

- ・示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているのかについて理解しているかどうかについては、全国の平均正答率を下回っている。

#### 【設問(2)】

- ・飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選択することができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

#### 【設問(3)】

- ・表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを数と言葉を用いて記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。



「量と測定」「数量関係」領域における「示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているのか理解すること」については、全国の平均正答率を下回っている。問題場面と式とを関連付けて、式に使われている数値の意味を読み取ること、演算の意味や何を求めているのかを読み取ることなどを大切にしたい指導の充実が求められる。

また、「飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選択すること」、「表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを数と言葉を用いて記述すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。特に、後者の数と言葉を用いて記述することは、無解答率が23.2%であり、記述することに課題が見られる。二つの数量の対応や変化の様子を明らかにするためには、二つの数量の関係を表にまとめたり、表から規則性を読み取ったりすることが大切である。また、見出した規則性がいつでも成り立っているかを、表の数値を用いて説明する指導の充実が求められる。その際、一人一人の児童が考えた説明について、より妥当で的確な表現に高めていくような意見交換を行うことを大切にしたい。

### 3 図形の観察と判断の根拠の説明（四角形の4等分）

③は、図形を観察し、示された図とその図についての説明とを対応させること、示された事実を基に、二つの三角形の面積が等しくなることを数学的に表現すること、示された図形の面積の相等関係を解釈し、それを基に他の図形を考察することができるかどうかをみるものであり、3つの設問により構成されている。

#### 【設問(1)】

- ・図に示された分割の仕方とその説明とを対応させることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

#### 【設問(2)】

- ・示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを、言葉と数を用いて記述できるかどうかについては、全国の平均正答率を下回っている。

#### 【設問(3)】

- ・長方形と台形の分割の仕方を比べて、台形の場合は4等分にならないわけを選択することができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「図形」「量と測定」領域における「図に示された分割の仕方とその説明とを対応させること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。全国の平均正答率が87.3%となっており、相当数の児童ができています。「示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを、言葉と数を用いて記述すること」については、全国の平均正答率を下回っており、また、無解答率が18.8%となっていることから、他者の考えを理解して、それを用いて問題解決できるようにする指導の強化が求められる。「長方形と台形の分割の仕方を比べて、台形の場合は4等分にならないわけを選択すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っており、一つの問題場面で成立した事実が、ほかの場面でも当てはまるかどうかを吟味したり、吟味した結果を表現したりする活動を通じて、その事実がどのような場面でも成り立つのかを調べ、統合的・発展的な見方を育てていく指導が求められる。

#### 4 情報の解釈と筋道を立てた表現（サッカー）

④は、日常の事象を数理的に捉え、単位量当たりの大きさなどに着目して筋道を立てて考え、二つの数量の関係の求め方を数学的に表現すること、示された情報を読み取り、ものの位置を特定すること、式に数値を当てはめて計算し、その結果の大小を基に判断することができるかどうかをみるものであり、3つの設問により構成されている。

##### 【設問(1)】

- ・単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

##### 【設問(2)】

- ・示された情報から二つの要素の意味を解釈し、ものの位置を特定することができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

##### 【設問(3)】

- ・示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断することができるかどうかについては、全国の平均正答率を下回っている。

「量と測定」「数と計算」領域における「単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を式や言葉を用いて記述すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。全国の平均正答率は43.1%であり、課題がある。問題解決のために必要な過程をすべて式に表すことや、単位となる大きさをそろえて数式を比較すること、解決の方法について見通しを立てることや、自分で考えた式を問題に当てはめて妥当性を吟味することなどを促す指導が求められる。

「図形」領域における「示された情報から二つの要素の意味を解釈し、ものの位置を特定すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っているが、全国の平均正答率は94.2%であり、相当数の児童ができています。

「数量関係」領域における「示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断すること」については、全国の平均正答率を下回っている。全国の平均正答率は50.6%であり、課題がある。具体的な場面と言葉の式とを関連付けて捉えることについて指導の充実が求められる。

#### 5 資料の数学的な解釈と判断の根拠の説明（図書館）

⑤は、示されたグラフの特徴を理解し、グラフの特徴を基に、数量の大小と変化の様子とを関連させて捉えること、基準量と割合の変化から比較量の大小を判断し、その判断の理由を数学的に表現することができるかどうかをみるものであり、2つの設問により構成されている。

##### 【設問(1)】

- ・棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフから、必要な情報を読み取ることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

##### 【設問(2)】

- ・割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を言葉と数や式を用いて記述できるかどうかについては、全国の平均正答率を下回っている。

「数量関係」領域における「棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフから、必要な情報を読み取ること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。複数の数量が表されているグラフを的確に読むことは、他の教科等との関連を図って指導するなど、今後も、指導の充実を図ることが期待される。「割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を言葉と数や式を用いて記述すること」については、全国の平均正答率を下回っている。全国の平均正答率は 44.4% であり、課題がある。判断の根拠について、それが十分なのかどうかを吟味し、どのような事柄を根拠として示すことが必要になるのかを確かめるような指導の充実が求められる。

## 小学校 算数

児童生徒質問紙【教科に関する設問】	【1】	【2】	【3】	【4】
算数の勉強は好きですか	37.6	26.3	19.8	16.1
算数の勉強は大切だと思いますか	69.3	21.1	6.3	3.1
算数の授業の内容はよく分かりますか	41.3	33.7	17.8	7.0
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	51.0	23.3	16.3	9.2
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	41.5	33.0	18.5	6.7
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	29.8	30.4	26.0	13.5
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	61.8	24.0	9.7	4.3
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	46.2	31.0	15.9	6.6
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	48.2	31.7	14.6	5.1
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	51.7	29.3	13.8	4.8

【1】 当てはまる

(単位は%)

【2】 どちらかと言えば、当てはまる

【3】 どちらかと言えば、当てはまらない

【4】 当てはまらない

### <設問分析>

- 「算数の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、63.9%（「当てはまる」は37.6%）となっており、全国平均を2.3ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は63.7%である。今後とも、算数的活動を通じて、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付くことができるような楽しい算数の授業を進めていくことが求められる。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、90.4%となっており、全国平均を1.7ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は92.5%である。今後とも、実生活における様々な事象との関連を図ったり、体験的な算数的活動を工夫したりするなどしながら、算数の価値や算数を学習する意義が分かるような授業を行うことが求められる。
- 「算数の授業の内容はよく分かりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、75.0%（「当てはまる」は41.3%）となっており、全国平均を5.2ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は75.7%である。今後、更に一人一人の学習実現状況を的確に把握し、個に応じた指導を充実することが求められる。

- 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、74.3%となっており、全国平均を2.9ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的な回答が78.0%である。今後、既習を活用して新しい問題を解決することを大切に学習を充実することが大切である。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、74.5%（「当てはまる」は41.5%）となっており、全国平均を2.9ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は78.0%である。今後、多様な考え方の違いや根拠を明らかにし、解決の見通しをもつことができるようにする学習の工夫が求められる。
- 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、60.2%（「当てはまる」は29.8%）となっており、全国平均を6.0ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は62.4%である。引き続き、日常生活の場面において算数が活用されているものを探するなど、算数の有用性を感じ取らせる指導の充実が求められる。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、85.8%となっており、全国平均を3.0ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は89.9%である。今後とも、算数と日常生活との関連を図りながら、算数の有用性に気付かせるような指導の工夫が求められる。
- 「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、77.2%となっており、全国平均を2.5ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は78.0%である。今後、より効率的な考え方を求めることを課題とした学習を充実するなど、課題意識を大切に学習の工夫が求められる。
- 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、79.9%となっており、全国平均を0.5ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は81.3%である。今後とも、公式やきまりなど、一般化された考え方や解決方法を探究する学習や、見つけた公式やきまりなどを言葉で説明し理解を深めるような学習などを取り入れるなどの学習の工夫が求められる。
- 「算数の授業でも問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、81.0%となっており、全国平均を1.5ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は81.9%である。今後とも、問題を見通しをもって筋道を立てて考え、ノートなどに、その考えを表現する学習を取り入れ、表現する活動を通して考える力を高める指導の工夫が求められる。